



今号では、10月に埼玉県で行われた「全特連全国大会」の概要を報告します。また、夏休み中に全道4地区で行われた「北特研各地区研究大会」の概要も、各地区からの「報告書」をもとにお知らせします。なお、3月発行の研究紀要41号に報告の詳細を掲載しますので、是非ご覧下さい。

## 「第58回全日本特別支援教育連盟全国大会 埼玉大会」報告

北特研総括事務局 事務局次長 北海道札幌稲穂高等支援学校教諭 西野 護

### I 大会の概要

#### 1 大会主題

「志をもち、未来社会を自立的に生きる子供たち」  
～一人一人の教育的ニーズに応じる教育の充実を求めて～

#### 2 大会期日 令和元年10月17日(木)・18日(金)

#### 3 会場

第1日目(全体会) 大宮ソニックシティホール大ホール

第2日目(学校見学) さいたま市内の小中学校・特別支援学校

(分科会) 大宮ソニックシティビル会議室



#### 4 日程

	9	10	11	12	13	14	15	16
第1日目 10/17(木)	受付	開会式 表彰式	昼食	研究 報告	行政説明 基調講演	全特連70周年 記念シンポジウム	閉会式	
第2日目 10/18(金)	受付	学校見学	移動 昼食	受付	分科会		閉会式	

大会1日目の功労賞表彰では、北海道特別支援教育研究協議会から、北海道札幌養護学校長(本会副会長)堀川厚志先生が、表彰式に出席し、表彰を受けました。

研究報告では千葉県立銚子特別支援学校教諭 東 郁美氏による全特連三木安正記念研究奨励賞受賞研究報告「自分たちで会社を作って『仕事』をしよう!」～学校の役に立つ仕事をパーフェクトにしよう～が報告され、高等部3年生の「職業」における主体的に学ぶことができる授業づくりについての実践発表でした。

本研究の報告は全特連機関誌「特別支援教育研究」平成31年1月号に掲載されています。

す。初めての場面でもあらかじめ教師が教えるのではなく、生徒のみで考える場面を設定し、できない状況を自ら考え「解決」する場面を設定する、教師は環境設定に関わり、分かりやすい観点で教師も取り組むことができるように工夫されていました。

子どもたちの学びは、子どもたちから作られるという、生徒主体の授業づくりを一貫して行っている状況はまさに、主体的・対話的で深い学びそのものと言える実践でした。

開催地研究報告では、埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園教諭 松澤 ゆかり氏による「共に学び、共に生きる」～合唱ミュージカル『ライオンキング』の取組～の実演が行われました。誠和福祉高校合唱部と羽生第一高校吹奏楽部と羽生ふじ高等学園の合同合唱ミュージカルは、表現力の豊かさもさることながら、生徒達の生き生きとして取組になっており、聴衆に大きな感動を与えていました。

午後からは行政報告、全特連理事長 明官 茂氏による基調報告、全特連結成 70 周年記念シンポジウム「特別支援教育の未来を展望する」～新学習指導要領と特別支援教育の実践研究を通して～が行われました。記念シンポジウムの要旨および、二日目の分科会の報告につきましては、3月発行予定の研究紀要に掲載いたします。

来年度、令和2年10月28、29日に行われる長崎大会では「健康・安全教育」での提案が北特研に割り当たっています。多くの方にご参加いただき、北海道の取り組みを発信するとともに全国の取り組みを受信する機会となればと思っています。



## ＊ ＊ ＊ 大 募 集 中 ＊ ＊ ＊

来年度の長崎大会で「健康・安全教育部会」での提案が、北特研に割り当たっています。防災教育、安全教育、食育など健康・安全教育についての実践をされている会員の方がいらっしゃいましたら、是非ご連絡ください！！

ただいま発表者を大募集しています！

発表を希望される会員のかたはぜひ！総括事務局までご連絡下さい！  
北海道の取り組みを、ぜひ全国に発信してみませんか？

# ○第 41 回北海道特別支援教育研究協議会各地区大会報告

## 道央大会

7月30日(火) 気温33度を超える猛暑の中、令和最初の研究大会に250名を超える特別支援教育に携わる皆さまにお集まりいただき、盛大に開催することができました。研究大会に足をお運びいただいた皆さまに感謝申し上げます。

午前中は、全日本特別支援教育研究連盟理事長であり、明星大学教育学部教育学科常勤教授 明官 茂 様に、「特別支援教育における『主体的・対話的で深い学び』の具現化に向けて」と題した講演を行っていただきました。講演

では、国立特別支援教育総合研究所の御勤務や今回の新学習指導要領の改訂に深く携われた経験を踏まえ、児童生徒にこれからの時代を自立した人間として多様な他者と協働しながら創造的に生きていくための資質能力の育成や授業改善、学習評価など、例を示しながら具体的にわかりやすく話していただき、今後の指導に活かすものがたくさんありました。

午後からは、小学部会、中学部会、義務併設高等部会、重度重複・訪問部会、単置高等部会、寄宿舎部会に分かれ、部会のテーマに沿ってワークショップ形式で進めていきました。各部会では6グループに分かれ、「音楽」、「体育」、「遊びの活動」、「造形的活動」の中から指導場面を決めて話し合い、発表するといった部会や、教科等を合わせた指導において、各教科の目標を効果的に達成するための授業づくりを協議の柱として進めた部会、就業やボランティアに関わる体験的な学習の指導について話し合われた部会など様々なテーマや協議方法で進めました。部会によっては、テーマが大きく、ブレインストーミングによるアイデアの書きにくい所もあったようですが、関心のある部会でのアイデアや話し合われたことは2学期からの授業に反映できる何かを得たのではないかと思います。様々なご協力をいただき本当にありがとうございました。



## 道北大会

7月31日(水)に、北海道小平高等養護学校を会場として、第41回道北地区研究大会(小平大会)兼北海道小平高等養護学校公開研修会が開催されました。道北地区の特別支援学校を中心に総勢125名の参加者が集まり、日頃の実践発表や情報交流を通して、学びを深めることができました。

午前中は、4つの部会が行われました。教科指導部会では、旭川高等支援学校と雨竜高等養護学校から自立や社会参加に向けた教育内容や授業改善の取り組みについて話題提供がありました。生活単元学習部会では、鷹栖養護学校と東川養護学校から学部に応じた授業実践と子ども自身が学習目標を知り、成果と課題を



振り返る授業について話題提供がありました。作業学習部会では、教科横断的な指導や地域の教育力を生かした取り組みなどについて話題提供がありました。日常生活の指導部会では、子どもの主体性を引き出すための指導・支援、また寄宿舎指導員の視点から、一人一人の生きる力につながる支援についての話題提供がありました。どの部会も話題提供後に小グループに分かれて、協議を行いました。

午後からの全体講演では、小平町出身で現名寄市特別参与 スポーツ振興アドバイザーの阿部雅司氏を講師に迎え、「どん底からの金メダル～つらい時こそ笑顔で～」の演題で講演をしていただきました。学生時代の恩師との「出会い」や今まで関わってくれた人たちへの「感謝」の大切さについて、また、挑戦し続けることが重要であり、チャレンジしないことは後退しているのと同じことだと話されていました。

開催にあたりまして、阿部様並びに各部会の助言者、話題提供の先生方をはじめ、道北地区の特別支援学校、小学校、中学校、高等学校、福祉事業所から参加された方々の御協力のもと、無事に終えることができたことを感謝いたします。ありがとうございました。

## 道南大会

7月31日(水)、北海道特別支援教育研究協議会道南大会が七飯養護学校にて行われました。当日は、総括事務局の稲穂高等支援学校から3名の事務局員の他、道南の養護学校・特別支援学校・小中学校・高等学校から186名の参加がありました。

開会式のあと、小学部・中学部・高等部・寄宿舎に分かれて部会が行われました。各部会にて1本ずつ事例発表と質疑応答が行われた後、5、6名の小グループに分かれて、協議会を行いました。「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つのキーワードに沿って、授業での取り組みを

発表したり、キーワードにかかわる目標の立て方や授業の展開の仕方の難しさを話し合ったりしました。日頃の実践を交流し合える貴重な時間を持つことができました。

午後のポスター発表では、七飯養護学校から各教科や領域の授業をまとめたポスターと今年度の研究の概要の発表、さらに午前中の部会で事例発表の担当でなかった道南地区の各学校からもポスターを用意していただき、合計21本の発表がありました。自由に各コーナーを回ってもらい、参加したみなさんで活発な交流を行うことができました。

最後の講演会では、山形大学大学院教授の三浦光哉先生から「特別支援教育のアクティブラーニング」～『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善～という演題でお話をいただきました。新学習指導要領の内容を示しながら、カリキュラム・マネジメントの重要性・「P→D→C→A」サイクルの機能化についてのお話がありました。単元目標の書き方では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「学びに向かう力・人間性等の涵養」の全ての視点で目標を盛り込むこと、単元の計画では失敗することも想定しながら、長いス



パンで設定して、「学び」が将来につながるようにすることの大切さなど、貴重なお話がありました。

とても暑かった一日でしたが、参加した皆さんの2学期からの実践につながっていただきたいと思います。

## 道東大会

道東地区では、8月2日(金)に紋別養護学校で研究協議会を実施いたしました。紋別の地域では珍しい30度近い暑い日の中で、100名の方が本大会に参加してくださいました。参加者の方の中には、周辺の遠軽町や北見市の他に、中札内村や中標津町のような遠方から来てくれる方もいるなど、多くの方に参加していただける研究大会となりました。



全体講演では、「新学習指導要領に基づいた授業実践～主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業改善に向けて～」をテーマに、北海道立特別支援教育センター所長小原直哉様に講演をしていただきました。前半は、指導要領の改訂のポイントや特別支援学校の教育課程の現状と課題や改善・充実の方向性についての説明をしていただきました。後半は、知的障害者用の国語科の教科書の中の教材を使って、「何を教えるか、どのように教えるか、何ができるようになるか」の観点に沿って、どのように指導するか演習を行い、交流も行いました。授業改善を行うには、教師の意識改革や指導力向上が不可欠であり、そのための環境整備や研究・研修の機会の確保が重要であると再認識することができた講演会となりました。

午後の分科会では、国語、算数・数学、作業学習(併設及び高等養護)、自立活動、生活単元学習、寄宿舎の全7部会に分かれて授業改善の視点で協議を行いました。道東地区の学校から提言を出していただき、「何を教えるか、どのように教えるか、何ができるようになるか」の視点で協議を進めました。それぞれの部会では、協議の柱に沿って各校の取り組みを紹介したり、より具体的な方法について協議を行ったりして、2学期からの指導に行かせるような分科会となりました。

道東地区大会が、参加して下さった先生方にとって、日々の授業をより良くできるような視点をもつことができ、子どもたちの将来につながる指導につながれば幸いです。たくさんのご参加ありがとうございました。

各地区大会か盛會に終了しました。各会場校の先生方、そして提言いただいた先生方、本当にありがとうございました！また、すべての地区を合わせて**663名**というたくさんの先生方にご参加いただき、ありがとうございます。どの地区も、まさに「ワンチーム」で大会を運営されており、どの地区も真夏のとても暑い中でしたが、協議においてもまさに「熱い」議論がなされておりました。

みなさんの会費で成り立つ本研究会です。今後とも会の意義にご理解とご協力をいただき、みなさまのお力で北海道の特別支援教育をさらに充実していきましょう！